

プレジデント・ミッション
2009年度 業務目標

業務全般

- 「JFA メンバーシップ基本還元金」および「プレジデント・ミッション支援制度」の 2011 年度以降の運用に関して決定する。
- サッカーファミリーのカテゴリー定義及び人数のカウント方法を都道府県協会と共通認識を持ち、2015 年までにファミリー500 万人に向けた都道府県別カテゴリー別など具体的な目標数の設定を行う。
- 活動状況の把握、新たなプログラムの創造、関係者とのコミュニケーションなどを目的に、支援制度対象事業の活動視察を行う。
- 都道府県協会と支部・市区郡町村協会との連携を推進し、様々な活動が日本中の全エリアで展開できる体制づくりを進める。
- 支援制度対象事業の活動やグリーンプロジェクト推進施設・スポーツマネジャーズカレッジなど各種事業の広報活動を積極的に行い、他地域での成功事例を増やしていく。
- 諸活動を更に発展させるため、全国の活動担当者を集めたジョイントミーティングを、充実した内容で行う。
- キッズからシニアまで、どの世代・カテゴリーにおいてもサッカーを継続的に楽しめる様な環境を整備する。特に、幼稚園・小学生年代～中学生年代を通じて、男女問わず充実した活動を展開していく。
- 「JFA フットボールデー」を全都道府県協会で開催するなどグラスルーツ活動を推進して、サッカーやスポーツを全ての年代の人々が楽しむ環境を提供する。

M 1:「JFA メンバーシップ制度」の推進

- サッカーファミリーを 2015 年までに 500 万人に拡大していくための実行スケジュールを策定する。
- 選手・審判員・指導者・役員等の登録者に加え、サッカーファミリーと思われるカテゴリーやカウント方法を都道府県協会に提示、現状のサッカーファミリー数の確認に着手する。
- JFA 登録者向け情報共有サイト(「JFA コミュニティ」)を、貴重な発信ツールの一つとして、更なる情報提供の充実を図る。
- JFA 公式ホームページや JFAnews をはじめとする各種媒体や映像等を使い、積極的なグラスルーツ活動の広報活動を行う。

M 2:「JFA グリーンプロジェクト」の推進

- 「ポット苗方式芝生化モデル事業」を推進する中で、誰にでもできる安価な芝生づくりを広く啓発し、より一層の芝生化の推進を図るとともに、国内各地に苗づくりの拠点を確保し、2010 年度以降の推進体制の確立に努める。また、芝生セミナーを実施し、各地に芝生化の推進を担う人材を養成する。
- 都道府県フットボールセンターの設置、並びに、都道府県協会やサッカークラブ等の活動拠点の確保に向けた事例集などを作成・展開する。
- 芝生化をより一層推進するための広報啓発活動として、冊子を作成・展開する。

M 3:「JFA キッズプログラム」の推進

- 好事例を積極的に PR し、適切な活動規模・活動頻度・組織体制を明示することで、都道府県協会と市区郡町村協会の連携を促進し、「JFA キッズプログラム」を都道府県内全域にて展開していく。
- 指導者養成をテーマとしたジョイントミーティングを実施し、より質の高い普及活動を展開するためにキッズリーダー養成事業の質的向上を図る。
- 地域間での自主的なジョイントミーティング開催を推奨し、各都道府県内のより多くのキッズ関係者の参加及びより広い情報共有を促進することで、全国の取り組みを活性化させる。
- 各種ミーティングを通じた情報共有を積極的に行うことで、小学生年代関係者・女子サッカー関係者・Jリーグアカデミーとの協力体制をさらに推進する。

M 4:中学生年代の環境充実

- 指導者不足対応、外部指導者の登用に関して、地域の大学と連携している都道府県の先進事例を情報共有し、各都道府県の実情に即した同様の取り組みを推進する。
- 生活圏内を中心として全域で活動を行い、年間を通じて中学生の全年代に門戸を開放している熊本県のスクール活動を積極的に PR し、全国で同様の取り組みを推進する。
- 「他年代との連携」を引き続き重点取り組み事項として掲げ、先進好事例を JFA news 等を通じて紹介することで、小学生年代から高校生年代へのスムーズな移行を推進する。

M 5:エリート養成システムの確立

- 各都道府県の活動視察を通じてヒアリングを行い、実状に応じた展開方法を議論することで、生活圏内におけるキッズエリート活動の複数拠点・定期的開催を促進する。
- 指導者養成をテーマとしたジョイントミーティングを実施し、キッズ年代の指導者養成のチーフを認定することで、各都道府県でのキッズエリート活動の質的向上を図る。
- キッズエリートガイドラインを発行し、各種ミーティングを通じて情報共有を積極的に行うことにより、地域/都道府県ユースダイレクター・小学生年代関係者・Jリーグアカデミーとの協力体制をさらに推進する。
- 未着手の都道府県協会に対してアプローチし、2010 年度にはすべての都道府県協会によるキッズエリート活動実施を達成する。

M 6:女子サッカーの活動推進

- 各年代において女子選手が継続的にプレーできる環境を整備するため、キッズ年代・小学生年代・中学生年代それぞれの関係者との連携強化をはかる。
- 新たに創出された中学校女子サッカー部への指導者派遣を実現し、中学生年代における競技人口の拡大を図る。
- 「JFA レディース/ガールズサッカーフェスティバル」の企画内容に未経験者/初心者を対象とした取り組みを加えることを推進する。
- ジョイントミーティングを活用し、「M3.JFA キッズプログラムの推進」、「M7.フットサルの普及推進」の担当者との連携を図り、さらなるグラスルーツの普及を推進する。

M 7:フットサルの普及推進

- フットサル施設や関連団体と協働体制を確立する。
- 生活圏内でより多くの活動が行われることを念頭に、ファミリーフットサルの定例開催を推進する。
- ジョイントミーティングを活用し、「M6.女子サッカーの活動推進」の担当者との連携を図り、さらなるグラスルーツの普及を推進する。

M 8:リーグ戦の推進と競技会の整備・充実

- 「高校生 / 中学生年代の地域 / 都道府県リーグ」の取り組みをサポートするとともに、JFA news 等を通じて先進好事例の紹介を行う。また、地域 / 都道府県コースダイレクターや担当者と協働し、各地域の実情を踏まえた上でリーグ戦を推進し、2010 年度までに全地域及び全都道府県での実施を実現する。
- 「小学生年代における日常の生活圏内でのリーグ戦」を都道府県に展開し、20 都道府県で 2,000 試合以上を実施する。

M 9:地域 / 都道府県協会の活動推進

- 「JFA 都道府県訪問会議」をより充実した内容とする。都道府県協会の課題をテーマに意義ある討議（ディスカッション）の場とし、JFA / 都道府県協会の活動に反映させる。
- JFA、都道府県協会、地区 / 市区郡町村協会の関係構築、更なる連携強化を推進するため、都道府県協会の取り組みをサポートするとともに、課題解決のための施策を提示する。
- 「JFA フットボールデー」が全ての都道府県にて実施されるよう推進する。また、視察などを通じ、参加者に好評である取り組みを抽出、他都道府県へ積極的に紹介して、「JFA フットボールデー」のレベルアップを図る。
- 都道府県協会の自主運営による、また地域性に応じた取り組みを推進するため、財源確保や施設の確保・活用等に向けた情報（一般の助成制度等）を積極的に展開する。
- シニア年代の更なる交流機会の増加を推進するため、「競技志向のプレーヤー」とともに「エンジョイ志向のプレーヤー」が一緒に楽しめるフェスティバルや地域性に応じた充実した競技会の開催を推進する。

M10:中長期展望に立った方針策定と提言

- 「JFA の約束 2015」を実現するための「アクションプラン 2015」の見直しの一環として、「JFA2005 年宣言」における「サッカーファミリー拡大」に向けた実行スケジュールの策定を行う。
- 「JFA2005 年宣言」の認知度を上げるため浸透 / PR ツールを展開する。
- JFA/J リーグ将来構想委員会の幹事としてプロリーグ及びアマチュアリーグの全体的なあり方について積極的に提案を行う。

M11:スポーツマネジメントの強化

- JFA スポーツマネジャーカレッジ(SMC)本講座について、そのあり方を再検討するとともに、2008 年度のカリキュラムを精査し、より良い講座作りに努める。また、より確実な事務局運営が行える様、その推進体制を整える。
- 各地(岩手 / 埼玉 / 東京 / 神奈川 / 福井 / 静岡 / 愛知 / 大阪 / 兵庫 / 島根 / 山口 / 沖縄で実施予定)で SMC サテライト講座を実施する。
- SMC 初級講座(仮称)の運用を開始する。
- SMC リフレッシュ制度のあり方を検討し、展開する。
- SMC 広報冊子の展開や JFAnews をはじめとした広報活動を行い、SMC の認知を高めていく。

以上